みなみっ子

83 号

令和８年 11 月 12 日（木）
南城市立大里南小学校
文責　校長　與儀　毅

学校教育目標　　自立　　協働　　創造

教科書とは違う沖縄の秋

最近、朝夕が涼しくなってきました。子どもたちが学ぶ教科書（全国基準）で描かれる「紅葉」「落ち葉あそび」「イチョウやドングリ」「肌寒い秋風」といった季節感は、亜熱帯気候の沖縄ではなかなか実感しにくいものです。しかし、沖縄にも「沖縄ならではの秋の訪れ」を知らせる風物詩や自然の変化が数多く存在します。

1 風・気象の変化

ミーニシ（新北風）：10月頃、夏から秋へ切り替わるタイミングで吹き始める北～北東の涼しい風のことです。この風が吹くと「沖縄にも秋（ミーニシの季節）が来た」と肌で実感します。

2 生物・昆虫の観察

オオシマゼミやクロイワツクツク（秋のセミ）：本土では夏の象徴であるセミですが、沖縄では 10 月～11 月にかけて「カンカンカン…」と鳴くオオシマゼミなどが秋の深まりを伝えます。

サシバ（タカの仲間）の飛来：10月中旬ごろ、本州から越冬のために宮古島や沖縄本島へ渡ってくる猛禽類です。「サシバが来ると秋本番」と言われる代表的な季節の便りです。

アサギマダラの渡り：秋になると旅をするチョウ「アサギマダラ」が本土から飛来し、サキシマフヨウなどの花に集まります。

3 植物・木々の変化

フヨウの花秋（10月～12月頃）に淡いピンクや白の大輪の花を咲かせます。やんばるの山道や沿道で一斉に咲くため、沖縄の「秋の景色」を彩る代表的な花です。

ススキの花穂：10月後半～11月になると、日差しを浴びてススキの穂が黄金色に輝きます。本土ほどの紅葉はありませんが、ススキのなびく風景は秋を感じさせます。

4 沖縄にもドングリはある？

全国の教科書に出てくるドングリといえば、コナラやクヌギ、マテバシイなどが一般的ですが、沖縄のやんばる（本島北部）などの森には、スケールの違うドングリが存在します。

オキナワウラジロガシのドングリの特徴

圧倒的な大きさ：縦の長さが 4～5cm、横幅も 3～4cm ほどになり、大人のゴルフボールや子どものこぶしに迫る巨大さです。本土で見られる一般的なドングリ（2cm 前後）と比べると 2 倍以上のサイズがあります。

重厚な殻斗（かくと：帽子部分）：帽子部分も厚みがあり、非常に頑丈で重厚感があります。

